



白門板橋

2012. 9. 15 VOL.38

編集
発行

中央大学学会 東京板橋区支部
〒173-0035 東京都板橋区大谷口1-39-2 TEL03-3956-9054



■ 巻頭言

支部定時総会を終えて

支部長 石塚 輝雄

会員の皆様には、ご多忙の中ご出席いただき、誠に有難うございました。平素は支部運営にご理解ご協力いただき、お陰様で支部運営は順調であります。

あらためて会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

総会には、大学から常任理事の松丸和夫先生にご出席いただき、「大学の近況」についてお話があり、大学の着実な発展が続いていることに会員は大きな感銘を受けました。

議事に入る前に、物故された藤井滋、佐藤幹夫幹事に黙祷を捧げご冥福をお祈りしました。

議事は、第一号議案・平成23年度事業報告、第二号議案・平成23年度収支決算報告並びに監査報告、第三号議案・平成24年度事業計画案、第四号議案・平成24年度収支予算案、第五号議案・役員改選の件及び第六号議案・支部規約一部改正の件の全議案が原案通り承認可決されました。

今年の総会の特色は、平成の卒業生が出席されたことで、今後の支部の歩みの中で活性化に大きく影響があると思えました。会員の皆様には、さらに積極的な入会活動を続けていただくことをお願いする次第です。

八月にはロンドン・オリンピックが開催されます。

中央大学からは、マラソンで山本亮選手（平19法）、フェンシングで千田健太選手（平21文）、競泳で石橋千影選手（総合政策3年）、陸上で飯塚翔太選手（法3年）と舘野哲也選手（商3年）が出場することになりました。世界の舞台で活躍できるように支部としても激励と支援をお願いしたいと思います。

支部のニュース

■定時総会に61名が集う

第24回定時総会は、去る6月16日(土)午後6時から区立文化会館大会議室にて開催されました。当日は、大学及び学員会本部を代表して中央大学常任理事・松丸和夫氏をお迎えし、60名の支部会員が出席して開かれました。

冒頭に、この一年間に物故された会員に黙祷を捧げてから、石塚支部長の挨拶があり、その後、議長に石塚氏を選任し議事に入りました。

第一号議案・平成23年度事業報告以下、全六号議案が原案どおりすべて異議なく承認可決されました。(議事内容の詳細は、4ページ以降に掲載しています)

引き続き同好会(カラオケ・囲碁・パソコン・ゴルフ)の各代表が行事内容の報告を行い、また旅行委員から秋の旅行の方針につき説明がありました。

総会終了後、全員の集合写真を撮り、第一部を終了しました。



▲ご来賓の松丸和夫先生

第二部は、大野正浩事務局長の司会で懇親会に移り、石塚支部長の挨拶の後、ご来賓の松丸和夫氏からご祝辞と母校の近況説明があり、力強い勇気をいただきました。

初参加の高野公二氏の紹介の後、佐藤道則相談役の発声で乾杯！

お酒が酌み交わされ、恒例の歌合戦は佐藤義常任幹事(カラオケ同好会会長)のリードでカラオケのマイクが順番に回され、宴たけなわとなり親睦を深め、最後に出席者全員が輪になって、校歌・応援歌・惜別の歌を合唱して散会しました。

(幹事長 池田亘利)

■今秋の行事

ホームカミングデーに参加

実施日 10月28日(日)
会場 多摩キャンパス
板橋区内三か所から乗車できるバスを用意しました。



写真 中央大学 白門プラザ

秋の旅行は奥松島に決定

実施日 11月3日〜4日
行先 宮城県松島町
恒例のバス旅行です。



写真 松島町役場 ウェブページ

(両方とも予約制です) 多くの皆様のご参加を希望いたします。(詳細は8ページに記載)

(三宅正代)

支部役員消息

■高島平ブロック長の竹田氏が急逝

支部の行事には積極的に参加され、会報の発送にも毎回応援をいただいた竹田和夫氏が急逝されました。



5月に体調の不良を訴えられ病院に検査入院、その後回復することなく、7月14日、死去されました。享年80歳。

(昭和30年・法卒)

■高島平新ブロック長に佐藤義氏就任

竹田氏の死去に伴い、高島平ブロック長には、後任として佐藤義氏が就任しました。



現在、当支部常任幹事でカラオケ同好会の会長です。

(昭和32年・法卒)

(池田)

母校のニュース

■春の叙勲

今年春の生存者叙勲で中大OBが、次のとおり授与されました。

●瑞宝重光章

河邊義正氏 (昭39法)

元東京高裁判事

寺尾 淳氏 (昭39法)

元広島地検検事正

吉川 亘氏 (昭39法)

元福岡地検検事正

他に、旭日中綬章3名

瑞宝中綬章15名

■中大OBが 法曹界の要職に就任

今年4月、最高裁判所ほかの人事異動で中大OBの異動が目を引きました。

■最高裁判所判事

小貫芳信氏 (昭48)

須藤正彦氏 (昭41)、横田尤

孝氏 (昭44)と共に、過去最

多に並ぶ三名が誕生しました。

■日弁連会長

山岸憲司氏 (昭45)

■ロンドン五輪で

千田健太選手が銀メダル

8月に開かれたロンドン五輪に、在学生三名、OB二名の計五名が、出場しました。

このうち、陸上に出場した館野哲也君、飯塚翔太君と水泳に出場した石橋千彰君の在学生は、十分力を発揮できないまま敗退。

またマラソンに出場した山本亮君 (平19) も健闘空しく40位に終わりました。

唯一、被災の宮城県・気仙沼出身の千田健太君 (平21) が、フェンシングフルール団体戦で銀メダルを獲得しました。

■硬式野球部

春季リーグは三位

春のリーグ戦は、島袋投手の力投から始まり、一時は優勝の夢も果たせるかと期待されましたが、島袋投手の思わぬ故障で苦戦を強いられ夢は消えました。

しかし後半を右のエース鍵谷君と四番打者二十八君の健闘で三位を確保することができました。

■東都大学野球

秋季リーグ戦開幕

9月1日 (土)、早朝に激しく降った雨が奇跡のように晴れ上がり、予定どおり戦国東都の秋季リーグ戦が開幕しました。

第一試合、亜対東洋大に続く第二試合で、国学院大と対戦した中大は、初回2本の安打に適時失策を重ねて3点を失い、8安打を放ちながら七回に1点を返えずの

がやつとの拙攻で3安打完投の鍵谷投手を援護できないまま、初戦を落としました。
中大1-3 国学院大



写真 平山

■箱根駅伝の展望

今年の緒戦となった5月の関東インカレで惨敗し、大変不安なス

タートを切りましたが、その後各選手それぞれ各地に遠征するなど訓練を重ね、数人の選手は自己新記録を出すほど好調な由。

箱根駅伝本番までには、出雲、全日本駅伝で経験を積み、昨季以上の成績を残せるよう期待されます。

エース区間の二区と山上りの五区がカギとなります。

■年会費制度廃止される

学会会では、財政逼迫に陥った平成15年度から23年までの9年間、年会費制度を導入してきましたが、平成21年から代理徴収制により、在学生 (4年次生) からの会費徴収が見込まれるようになり財政難は解消しつつあることから平成23年度をもって年会費制が廃止されることになりました。

中央大学学員時報 (平成24年5月25日発行) に公告されたほか、これまで継続して納付してきた学員には個別に案内通知がありました。が、「学員会費」(年会費とは異なる) 未納の既卒者には、納入協力を呼びかけております。

(栗原三郎)

定時総会の議決報告

開催日/平成24年6月16日
会場/板橋区立文化会館

第24回定時総会が実施されましたので、次のとおり報告いたします。

■第一号議案

平成23年度事業報告の件

(自・平成23年4月1日)
至・平成24年3月31日)

大野事務局長から報告があり、異議なく承認されました。

* * *

4月3日(土) 観桜会
東日本大震災の為に中止

4月12日(火) ゴルフ同好会
グリーンオーक्सカントリー 22人

5月6日(金) カラオケ同好会
会場サンイチ 年2回 延62人

5月11日(水) パソコン同好会
ハイライフプラザ 年6回 延45人

5月26日(木) 幹事会
グリーンホール402号室 36人

6月1日(水) HP委員会
会場 菜遊亭 6人

6月18日(土) 定時総会
会場 板橋区立文化会館 68人

7月19日(火) 会報編集会議
会場 ルノアール 6人

8月20日(土) 都区内支部連絡会会議 駿河台記念館 3人

8月22日(月) 会報 校正
会場 ルノアール 6人

9月15日(木) 会報 発送
文化シヤッター研修所 10人

9月28日(水) 常任幹事会
会場 サンイチ 22人

10月1日(土) 都区内支部連絡会総会 中野サンプラザ 3人

10月18日(火) ゴルフ同好会
浦和ゴルフ 22人

11月12日(土) 13日(日) 旅行会 信州安曇野 23人

12月10日(土) 忘年会
会場 好味来 42人

1月21日(土) 新年会
会場 板橋区立文化会館 56人

2月27日(金) 会報 校正
会場 ルノアール 6人

3月16日(月) 会報 発送
文化シヤッター研修所 10人

3月23日(金) 常任幹事会
グリーンホール403号室 27人
(以上)

■第二号議案

平成23年度・収支決算報告並びに会計監査報告の件

平成23年度 貸借対照表

平成24年3月31日現在

(単位:円)

資産の部			負債・剰余金の部		
科目	概要	金額	科目	概要	金額
現金	期末手許有高	132,090	次期繰越金	正味財産	1,363,923
郵便貯金		740,916			
郵便振替		8,620			
普通預金	三菱東京UFJ	452,835			
普通預金	協栄信用金庫	2			
計		1,363,923	計		1,363,923

上記の通りご報告いたします。

平成24年3月31日

中央大学学員会 東京板橋区支部長 石塚 輝雄 (印)

会計担当 (臨時代理) 徳永 時彦 (印)

同 (臨時代理) 佐藤 通貞 (印)

監査報告書

監事3名は板橋区支部の平成23年度会計について監査の結果、決算及び関係書類の会計処理は適正に行われており、決算数値は適正であることを認めます。

平成24年5月17日

中央大学学員会 東京板橋区支部 監事 園上 裕次 (印)

同 中路 義雄 (印)

同 栗原 三郎 (印)

平成23年度 収支計算書

自平成23年4月1日 至平成24年3月31日

(支出の部)

(単位:円)

科目	予算額	決算額
総会費	500,000	325,850
役員会費	20,000	22,770
常任幹事会費	160,000	125,000
幹事会費	100,000	72,000
新年会費	420,000	317,041
観桜会費	0	0
旅行会費	800,000	768,802
忘年会費	240,000	231,000
経活動補助費	80,000	81,800
同好会補助費	40,000	40,000
会員増強費	100,000	0
中央大学訪問費	80,000	0
会報作成費	380,000	257,035
施設使用費	100,000	81,280
印刷費	40,000	21,280
ネット管理費	35,000	28,000
通信費	160,000	162,870
慶弔交際費	100,000	76,700
消耗品費	15,000	5,693
支払手数料	25,000	12,160
寄付金支出	0	0
雑費	3,000	0
予備費	1,028,980	0
(計)	3,435,000	2,694,201
次年度繰越金		1,363,923
合計	4,463,980	3,958,124

平成23年度 収支決算報告書

自平成23年4月1日 至平成24年3月31日

(収入の部)

(単位:円)

科目	予算額	決算額
年会費	600,000	510,000
総会費	560,000	458,000
役員会費	20,000	11,500
常任幹事会費	160,000	121,000
幹事会費	160,000	72,000
活動補助	0	21,000
新年会費	420,000	385,000
観桜会費	0	0
旅行会費	800,000	763,990
忘年会費	240,000	231,000
会員増強	100,000	0
寄附	50,000	89,000
中大補助	20,000	0
中大訪問	80,000	0
受取利息	3,000	74
雑収入	0	33,670
(計)	3,153,000	2,694,144
前年度繰越金	1,313,980	1,313,980
合計	4,466,980	3,958,124

左表(一部省略)のとおり平成23年度の収支決算報告が徳永会計幹事からあり、引き続きそれに

対する監査報告が関上監事により行われて満場これに異議なく、拍手をもって承認可決されました。

■第三号議案

平成24年度・事業計画(案)

(自・平成24年4月1日)

至・平成25年3月31日)

大野事務局長から次のとおり
事業計画の説明があり、満場異
議なく、拍手をもって承認可決
されました。

* * *

一、定時総会及び懇親会

日時 6月16日(土)

会場 板橋区立文化会館

二、親睦会の開催

観桜会 4月7日(土)

茂呂山公園にて開催済み

担当 大山・大谷口

旅行会 秋に開催予定

忘年会 12月開催予定

新年会 平成25年1月予定

三、他支部との交流

(都区内支部など)

四、同好会活動の促進

囲碁同好会(毎月土曜日開催)

ゴルフ同好会(年2回開催)

カラオケ同好会(年2回開催)

パソコン同好会(年7回開催)

五、広報活動

会報『白門板橋』の発行

ホームページの更新

『学員時報』への寄稿

25周年記念事業(平成25年

6月)準備委員会の設置

各ブロック活動支援

新会員名簿の作成(今回は平

成21年9月作成)

六、会員増強活動

A 区民まつりに支部として

参加(抽選による)

赤塚農業まつりにも参加

を検討

B 各ブロックごとに会員増

強に努める

七、ホームカミングデーへ積極

的に参加する

日時 10月28日(日)

会場 多摩キャンパス

交通 バスを用意する

■第四号議案

平成24年度・収支予算(案)

* * *

徳永会計幹事から、下表(紙面

の都合により一部省略)のとおり、

平成24年度の収支予算(案)の説

明があり、引き続き、石塚議長に

より場内に諮られ、満場異議なく

拍手を持って承認可決されました。

平成24年度 収支予算 (案)

自平成24年4月1日 至平成25年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
年会費収入	750,000	総会費	560,000
総会費収入	560,000		
協賛金収入	750,000		
諸事業費収入	1,600,000	諸事業費	1,600,000
会議費収入	330,000	会議費	410,000
中大補助収入	20,000	ブロック支援	210,000
中大訪問収入	75,000	事務局強化費	50,000
寄付収入	50,000	同好会補助	40,000
諸活動収入	80,000	諸活動補助費	80,000
受取利息	1,000	慶弔交際費	100,000
		施設使用費	100,000
		会報作成費	400,000
		印刷費	40,000
		事務消耗品費	15,000
		通信費	200,000
		ネット関連費	45,000
		中大訪問費	95,000
		支払手数料	20,000
		雑費	5,000
(収入計)	4,166,000	(支出計)	3,970,000
前年度繰越金	1,363,923	予備費	1,559,923
合計	5,529,923	合計	5,529,923

■第五号議案

役員改選の件

支部規約第12条により、本日の
総会終結をもって、全役員任期満
了となるため、役員選考委員会
(副支部長2名、監事1名、幹事

長、事務局長の合計5名)を代表

して池田幹事長から、石塚支部長

の再任と副支部長以下の新役員

候補者の選考説明があり、別紙一

覧表の候補者全員が原案どおり

承認可決されました。

主な役員人事

一、石塚支部長再任

一、佐藤道則元副支部長が退任さ

れ、相談役に就任

川口 正元副支部長が退任さ

に活性化を図るため。

■第六号議案

支部規約の一部改正の件

支部規約第17条の改正規定に
基づき、配布された議案書の改正
内容の説明があり、過半数以上の
賛成多数で承認されました。

改正条文 第8条の7

(常任幹事の人数)

新 常任幹事 40名以内

旧 常任幹事 25名以内

改正理由 支部組織の強化並び

に活性化を図るため。

(別紙)

平成24年度

東京板橋区支部新役員名簿

顧問	小日向孝介		常任幹事	猪橋進一		幹事	清水治男	
同	小野田 元		同	竹田和夫		同	川上久雄	
相談役	関 正夫		同	佐藤 義		同	本橋 順	
同	栗原泰房		同	宮村 徹		同	蒲生年公	
同	小野沢隆一		同	小島基之		同	吉岡聯太郎	
同	巨勢典子		同	大森 守		同	大泉喜義	
同	牧 吉雄		同	垣内 茂		同	西元文武	
同	栗山秀男		同	宮崎雄文	☆	同	浅香義亮	
同	片桐久雄		同	三田喜一		同	佐藤啓司	
同	佐藤道則	☆	同	吉野昭一		同	中山 修	
同	川口 正	☆	同	内田繁夫	☆	同	早坂光平	
監事	関上裕次		同	伊藤 潤		同	阿部顕一	
同	中路義雄		同	末田紀之	☆	同	豊田哲夫	
同	栗原三郎		同	布施二郎	☆	同	成毛義光	
支部長	石塚輝雄		同	久米英雄		同	荒井賢太郎	
副支部長	平山惟美		同	浅野國昭		同	藤野 守	
同	須田幸男		同	岡田利彦		同	谷口博志	☆
同	三宅正代		同	前田昌則		同	若木康夫	
同	深山 宏	☆	同	小林健一		同	山城博光	
同	松島道昌	☆	同	露木久剛	☆	同	小林武男	
幹事長	池田亘利		同	近藤 正		同	小宮 勇	
副幹事長	菅 東一		同	安井賢光	☆	同	矢部恵己	☆
同	川崎力男		同	中三川孝幸		同	碓谷幸照	
事務局長	大野正浩		同	鈴木 裕		同	安倍廣司	
事務次長	徳永勝彦		同	山本仁二		同	榎本都行	
						同	鈴木 博	☆
会計幹事	小宮 仁	☆				同	池内稚利	
同	新村一臣	☆				同	笹沼史明	☆
						敬称略	☆は新任を示す。	

■楽しかった観桜の宴

恒例の支部観桜会は4月7日(土)、茂呂山公園にて34名の参加を得て開催されました。

昨年は東日本大震災のためやむなく中止。

今回の担当は、大山・大谷ロブツの面々。久し振りに満開の桜を眺めつつ、野外での宴となりました。



▲桜の下にてカンパイ!

垣内茂ブロッック長の挨拶に続いて、佐藤道則副支部長(現・相談役)の乾杯の発声で開宴。

飲むにつれ「中大節」をはじめ、懐かしい歌などが飛び出しますます盛り上がり、明るく楽しい一日を過ごすことが出来ました。

感謝 感謝。

(観桜会幹事 大野正浩)

■随筆 ■

「禁煙」

平山惟美



今年八月で、禁煙して一年七月になる。

昨年二月節分の日の翌日、急性肺炎を患って急遽入院した時に、五十四年間続けた喫煙生活に終止符を打った。

知人や友人、家内にも宣言した訳ではなかったが、「よく止められましたネ」と、異口同音にこの台詞を浴びた。

私が煙草を喫い始めたのは、大い三年の頃だったと思う。アルコールは法を犯して一年の時から嗜んでいたが、煙草は休講や休憩時間の際に、友人から煙草ケースを差し出されて、その都度辞退せず遠慮がてら喫うのも余り格好の良いものでなかったたので、自分で購入して喫い始めた。爾来五十四年間に一度の中断もなく喫い続けたのである。

煙草は旨いものか?と聞かれると、上手に答えられないが、不味

いものでもない。嗜好品というのは、栄養摂取を目的とせず、香気や刺激を得るための飲食物と定義されるように、煙草は男にとつて「紫煙」をくゆらすと言うように動くアクセサリーでもあり、付属品のライターや煙草ケースに気を配ったりする楽しみもある。

近年、家庭でも職場でも喫煙が制限されて、喫煙者(愛煙家)は極めて肩身の狭い思いをして、気の毒に思うが、喫わない者からすれば、あの煙と臭いは迷惑であろう。嫌煙権なる言葉が生まれ、喫煙者を犯罪人扱いする世の中になった。追い打ちをかけるように一昨年十月から一斉に煙草が値上げされた。軒並み五〇パーセント近い大幅な値上げだった。

私は、煙草が値上げになった後も「tasp」をつくり、半永久的に喫煙を続けるつもりだった。しかし、昨年の急性肺炎で自主的に「禁煙」することにした。禁煙して三日経ち、三カ月が苦もななく経過した。三年と言われる大きな壁も難なく越えられると思う。用の無くなった使い古したダンヒル・ライターが、いま書棚の抽出しの中で静かに眠っている。

TOPICS

■猛暑の中で猛練習

8月5日(日)当支部のボートクルー7人の内の4人は日中の気温34度の中、戸田漕艇場の中央大学艇庫に集合、まず艇庫内にてローイングマシンにより、次いで水上に出て、ナックルフォア(4士)の練習を各1時間行なった。コーチは、7月が田中兼勝氏(墨田支部・昭41卒)、本日が布施二郎氏(昭39卒)。



▲前列中央が布施コーチ

これは秋に実施予定(9月中旬頃決定)の学内レガッタ参加を目指したトレーニングで本日も参加のクルー4人(小宮仁・川崎力男・山本仁二・笹沼史明選手)は、練習とはいえ真剣そのもの。『当支部は2チームの出場を目標にして、目下チームを編成中です』チームリーダー小宮仁選手の抱負である。(伊藤 潤)

告知板



■ホームカミングデー参加用バス

10月28日(日)、母校では多摩キャンパスにおいて第21回ホームカミングデーが実施されます。昨年は3月に発生した東日本大震災のため、ホームカミングデーは行われませんでしたので、2年振りの祭典となります。

板橋支部では、参加する支部員用に専用バスを運行いたします。

板橋区内からのバスの乗車場所は3か所で、集合場所および発車時刻は、別紙案内書のとおりです。

事前申し込み制で、バス代は掛った費用を参加人数で割って決めます。おおまかな金額は、案内書に記載してあります。

バスに乗車を希望する支部員の方は、案内書に申込書が付いておりますので、事前にお申し込みください。

申し込みの締め切り日は、9月28日(金)です。

(実行委員 池田)

■秋の旅行のご案内

6月16日の総会において、旅行委員会のメンバー3人(川崎男・鈴木裕・松島道昌)が紹介されました。いずれも旅行については、各地を訪問して、多くの知識を持っていきます。

この度、秋の旅行先につき、宮城・福島・新潟・山梨・静岡の各県の検討を重ねました。その中から最適として宮城県の奥松島を選びました。

日時	11月3日(土) ~ 11月4日(日)
行先	宮城県 仙台・松島
宿泊	ホテル松島 大観荘
観光	青葉城址・五大堂・松島めぐり遊覧船観光・奥松島の景観眺望など
交通	バス旅行
費用	別紙案内書のとおり

詳しくは、旅行案内書をご覧の上、事前にお申し込みください。締め切りは10月2日(火)です。お問い合わせは、旅行委員の川崎まで。

(川崎)

■忘年会

日時 平成24年12月8日(土)
会場 庄や 上板橋店
受付 午後5時30分
開始 午後6時
担当 徳丸ブロック
別紙案内書をご覧ください。

■新年会

日時 平成25年1月26日(土)
会場 区立文化会館
受付 17時30分
開始 18時
詳細は後日別途案内いたします。

■来年の観桜会

担当・常盤台ブロックで計画中です。詳細は来年別途案内いたします。

■新入会員(敬称略)

○藤井輝明(昭和57年・経卒)
自宅 国立市中
趣味 ボート(中大レガッタ等)
ブロック 区外

○山田 力(平成3年・法卒)

自宅 板橋区高島平
ブロック 高島平
入会歓迎、当支部へようこそ。

■会員を増やそう

年次支部には多くの卒業生が参加しております。しかし、地域支部には卒業生がなかなか集まらないという傾向がみられます。地域支部は、その地域に住所があることか、職場があることなどの条件がつくからでしょうか。どうすれば地域支部の会員を増やすことが出来るのか、支部員各位のご協力をお願いいたします。(事務局長 大野正浩)

■訃報

▼佐藤幹夫さん(昭和28年・商) (平成24年4月6日 逝去)
▼竹田和夫さん(昭和30年・法) (平成24年7月14日 逝去)
謹んでお悔やみ申し上げます。(事務局)

■会費を納入しましょう

当支部は、支部員の納める会費により、運営されています。今年度の会費をまだ納めていない方は、同封の納付書により納入くださるようお願いいたします。年会費は、三、〇〇〇円です。(会計幹事)

(会計幹事)

■白門出身作家シリーズ

和田芳恵文学拾い読み

『順番が来るまで』

著者／和田芳恵

発行所／株式会社講談社

■著者プロフィール

明治39年3月 北海道生まれ。

昭和6年3月 本学法学部卒業。

新潮社入社、編集のかたわら

同人雑誌『山』創刊。「格闘」

を発表し、芥川賞候補となる。

昭和16年 新潮社を退社。『樋口

一葉』を出版。その後も樋口

一葉研究を続け、全集の編集

他一葉関係の執筆に従事。

昭和31年 『一葉の日記』(筑摩書

房)で日本芸術院賞を受賞。

昭和39年 『塵の中』で直木賞受

賞。

昭和52年4月 『暗い流れ』(河

出書房新社)より刊行。これ

が日本文学大賞を受賞。

昭和52年10月 東京都大田区の

自宅で死去。

*

およそ文学とは縁の薄い本学に偉大な先輩がいたのである。

本書は、身近にいた同年代の友人が年齢順に次々に亡くなるのを横目に、自分の亡くなる順番を予見しながら、地方の文化誌に、郷里・北海道にまつわる思い出や中央の新聞、雑誌等に文壇余滴といったものから身辺雑記類を含めたエッセイを発表し続けた。

本書は、四つのジャンルに分けて編まれているが、郷里の北海道にまつわる幼馴染のマサについてほのぼのした一文を書いている。

「一葉は、頼みもしないのに、「少女の友」を私に貸したりした。私は身ぎれいな一葉を他人行儀にあつかっていたが、マサは好きだと思っていたらしい。

マサは、いつも、ほこりっぽい感じであったが、私は好きだった。マサの日向(ひなた)くさい髪の毛いも、好ましかった。

私は、マサが一枝よりも、誰よりも好きだと、それなのに口に出すことができなかった。略

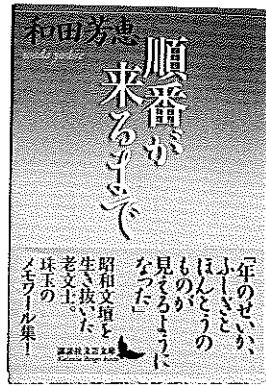
また、大学生(中大)の頃、親

友の平松太郎と連れだつて財政学の講義をしていた芹沢光治良宅を訪れ、持参した作品を読んでもらったのか、「なかなかいいと思うよ」と平松君が誉められたこと。

十代の代用教員にはじまり、出版社勤務の十年余りを除くと、出版事業で経営難に陥り、昼は表を歩けない生活が続いた。

事業は失敗しても創作活動は旺盛だった。

問題は、売れるかどうかであつて編集者時代に知り合った女流作家・林芙美子の推薦をもらうために足繁く足を運んだ。



で、林さんの肌の温かさが感じられるようであった。と、書いている。

昭和二十年代の半ばの「千円」は、現在の価値に換算して、どれくらいになるのか……。

私は、金額のことより、「当座の雑費にして……」という心配りに他ならないと思う。

『放浪記』を地で行った林芙美子ならではの所行である。

貧困と闘い続けた和田にも、明るく楽しいエッセイもある。

作家の武田鱗太郎に連れられて二の西の市へ出かけ、言われるままに小さい熊手を買い求めて戻ると、早速に原稿の依頼が舞い込んだという一文もある。

晩年は、日本大学芸術学部他共立女子大学文芸学部や土浦短期大学の国文科教授を歴任するかわら、「三田文学」等を介して執筆活動を展開し、『塵の中』で直木賞を受賞。

最晩年は『暗い流れ』で日本文学大賞を受賞した。

遅咲きの偉大な作家だと知らされた。

(平山惟美)

富士詣りと富士講

関東一円に富士見と名の付く所はたくさんあります。その多くは、富士山が良く見えるところから、富士見台とか富士見町とか言われています。江戸時代、大山詣りや富士詣りが大変流行していたことは、皆様ご存じのとおりです。

板橋で富士詣りに使われた道が富士街道、別名S B通りと呼ばれている道です。

地名の由来…③〇

「富士見町」の巻

富士見町という町名は、昭和三十一年から使われておりますが、この町名は住民一致で決められたということですが、それは昭和二十九年に、この街道沿いに富士見台小学校が開校したことも大きな影響を与えたようです。

以上のように、富士詣りの街道がそばにあったから、この近所では富士見という名がいろいろな場

面で使われたのではないでしょう。もちろん、この街道から富士山が見えたのかも知れませんが、富士講ですが、板橋には縁がありません。江戸時代中期は世の中が混乱しており、これを正そうとして「生き仏」になることを決心した者がありました。



伊藤身禄という者です。身禄は伊勢の国の人で、同じく伊勢松坂出身の富士講の行者・月行創仲(そ

うじゅう)の弟子となりました。身禄は、享保十五年に富士山入定を決意し、同十八年に富士山烏帽子岩で入定いたしました。

この時同行したのが、身禄の幼小の頃から知り合ひであり、直弟子でもあった永田長四郎という人です。

この永田長四郎は、下板橋平尾で伊勢屋と号しておりました。

当時の将軍・吉宗の政治を批判し、米価高騰などで混乱していた社会に、この身禄の入定は人々の心を引きつけ、急速に富士講が組織されました。

永田長四郎が始めた板橋の永田講は、長四郎が身禄の直弟子ということから、諸講のなかでも名門といわれました。

縁切りえのき(榎)も伊藤身禄と関係があります。

商売で成功した身禄は、妻と三人の娘たちに家を捨てる事を切り出します。子供の時からかたく誓ったことなので、神様にうそをつくことになるから、是非富士山に行かせてくれと言ひ、そのまま家を飛び出します。

家族は後を追ったが、板橋宿まで来てしまいました。道端において繁った大木の木蔭の橋の欄干に妻子を腰かけさせ、最後の別れをしました。

この大木のえのき(榎)を「縁切り榎」といい、欄干のあった橋を「なみだ橋」というようになったということですが。

(文・写真とも 中三川孝幸)



* 編集後記 *

■今号でとりあげた白門出身作家・和田芳恵先輩の日本文学大賞作品『暗い流れ』が、絶版と知りながら無性に読みたいと思つていたら、梅雨明けの散歩の途中に飛び込んだ古書店の奥まった書棚に、帯を付けてハードケースに静かに眠っているではないか!

”念ずれば通ず”と言われるが、まさに箱入り娘に出会つたような嬉しいひとときだった。

(編集長・平山)

■昨年の東日本大震災から一年半が経過し、やつと復興の明かりが見えてきました。

本年秋の恒例の旅行は、東北以外は考えられないとの意気込みで旅行委員が選んだのは奥松島です。

■團伊玖磨著『パイプのけむり』は、エッセイの名著としてあまりにも有名ですが、今月号には愛煙家だった平山編集長が、紫煙を断つた心情を述べた随筆『禁煙』を載せました。ぜひご覧ください。

(編集委員・伊藤)